

だ み よ く り に



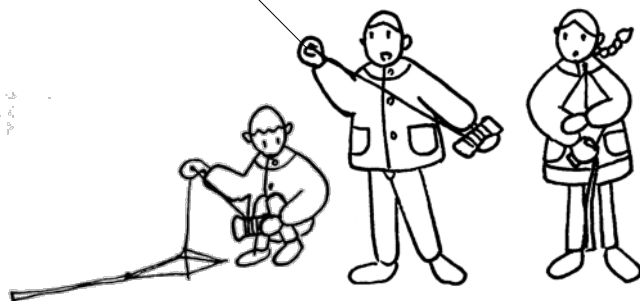
No.757 令和7年1月1日発行

「自分を抱きしめましょう」

よき新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年末年始はいかがお過ごしでしょうか。子どもたちは大好きなご家族と一緒に過ごし、体も心も充電していることと思います。そして、わたしたち大人も体と心の充電が必要です。子育て、家事、仕事、療養、介護、勉強……毎日これらをして、誰かに褒められることや認められることがなかなかないのは不思議ですね。なのでお伝えします。本当によくやっています。すばらしいことです。できれば、お読みになったあなたに届いてほんの少しでも充電になれば幸いです。

園は小さな社会です。12月には子どもたちで大掃除。教室とロッカーを整理したり、ひとり一枚雑巾を使って拭いたりしてきれいにしました。また、年末年始の挨拶「良いお年をお迎えください」「明けましておめでとうございます」についても知りました。このように新年を迎えるという過程を経験するさまは、まさに社会生活です。そして幼児クラスでは、毎学期ごとに子どもたちが集まって始業式と終業式を行います。2学期の終業式では、<自分の成長に気づく><冬休みをどう過ごすか約束事を知る><3学期に期待をもつ>ことをポイントに話をしました。世間を騒がせるような出来事もある昨今なので、“ちゃんと話を聴いて約束事を守ってね”“またみんなで元気に集まろうね”とつい想いが強くなってしまいます。そんなこちらの想いに応えてくれるかのように、しっかりと目を見て話を聴いてくれたり、前にした約束事を覚えている発言もあり、嬉しかったです。「この子たちならきっと大丈夫」そう信じて冬休みの間を過ごしています。



わたし自身もなんとか新年に滑り込みました。お恥ずかしいのですが、我が家（と聞くと家族のように聞こえるかもしれませんが私のものです……）には「積み本」があります。「積読（つんどく）」と言うこともあります。意味は字のごとく「入手した書籍を読むことなく積んだままになっている状態」のことです。年末に少し読み進めることができ、最近読んだのは児童精神科医 佐々木正美先生の思春期の子どもたちのことについて書かれた本です。思春期のだから今日の前にいる乳幼児期の子どもたちとは少し離れた内容だろう……いやいや、そうではありません。「人間は生まれたときから昨日の続きで今日を生き、今日の続きで明日を生きる」「思春期は昨日の続きでやってくる」「思春期の行動の根っこには、乳幼児期の育ち方が深く関係している」と繰り返し書かれていました。まさに背筋が延びる想いで読み終わりました。佐々木先生は、年齢に関係なく子どもと向き合う上でもっとも大切な心がけは、「子どもの望みをかなえてあげる、満たしてあげる」ことだと言います。そして「厳しさを教えるのはそのあとです」と。この本のタイトルは「抱きしめよう わが子のぜんぶ」です。読み終わった後、すぐに行動できそうだと感じさせてくれるタイトルにも先生の想いが詰まっているように感じました。

書籍や研修を通して教育保育について学んだことは自分の中で完結せず、子どもたちに関わる中で還元できればと思っています。子どもにとって一番重要なご家庭に寄り添いながら、わたしたちこども園は、こども園にできることを提供しながら、子どもたちの育ちを支えています。皆さんが健康で幸多き一年となりますよう願っております。